

病院経営基盤の安定

—病院が自立していくために—

第61回国立病院総合医学会
(平成19年11月17日 於名古屋)

座長 早川敏博 下中直実*

IRYO Vol. 63 No. 3 (193-194) 2009

キーワード 病院経営基盤, 自立, 事務部門

国立病院から独立行政法人に移行して3年が経過したところですが、機構全体としては経常収支黒字を達成しているものの、個々の病院の置かれている医療環境や経営状況は依然として厳しく、将来的な医療の継続や診療機能の強化に向けて、経営基盤を安定させることが重要な課題となっている。そして、本年からは、将来投資と資金捻出額に着目した中長期的な視点からの改善目標を設定し、その達成のための「再生プラン」を策定することとなり、該当病院においては、改善のための病院全体での具体的な取り組みが始まっている。

このような状況の中、自らの病院が自立していくための企画・提案をいかにできるかが事務部門に問われている。

そこで、本シンポジウムにおいては、事務部門が経営基盤の安定のためにどのように取り組んでいるのか、そして、将来に向かって何を考え企画しようとしているのか、さらにはいかに行動すべきかなどについて、急性期病院・慢性期病院・精神病院、そして機構本部、それぞれの立場から具体的な取り組み事例や検討課題および提言として発表していただ

いた。

各シンポジストからは、取り組み事例として、改善の実効を上げるにはいかに職員全体のモチベーションを高めるかが重要であり、そのために必要性を十分説明し理解を得、目標を明確にして取り組み、目標達成の評価方法とインセンティブを明確にしたこと。そして、事務職自らが経営参画意識を高め病院のペースメーカーとして活動したこと。さらには「どうしたら病院の建て替えができるか」を目標に掲げて「ちりも積もれば式」と「肉をもそぎ落とす式」の改善方策を複合的に実施したなどの取り組みが発表された。

また、精神病院における部門別収支バランスの検討や慢性期病院における医療需要に応じた機能転換の検討が課題であることなどが発表された。

そして、機構本部からは事業経営における「経営責任」を果たすためには、変革・改善の必要性に気づくこと、改善のポイントを理解すること、そして行動すること（役所仕事では何も変わらない）が重要であり、そして、事務職は資金繰りと診療報酬の枠組みを理解し、部門別に収支改善（均衡）を図る

NHO 天竜病院 事務部 *国立病院機構本部 東海北陸ブロック事務所
別刷請求先：早川敏博 NHO 天竜病院 事務部 〒434-8511 静岡県浜松市浜北区於呂4201-2
(平成20年9月25日受付, 平成20年11月14日受理)

Stabilizing Hospital Management Base-toward Self-sustainability of Hospitals
Toshihiro Hayakawa and *Naomi Shimonaka, NHO Tenryu Hospital, *National Hospital Organization
Key Words: hospital management base, self-sustainability, business department

ことが必要であるとの提言がなされた。

結果的に各発表で時間が押したため、会場参加者との意見交換により議論を深めることはできなかったものの、自らの病院の自立に向けた方策の企画・立案、実行について、事務部門が病院を牽引していくことの重要性を改めて認識できたものと考えている。

当シンポジストのうち、下記二名の方の発表内容は、下記にすでに掲載されておりますので、ご参照下さい。

- 1) 岡崎武夫. 今, 事務職が出来ること-事務職は裏方じゃない-. 医療の広場 2008; 48: 19-20
- 2) 関木裕美. がん相談支援・情報センターにおける医療ソーシャルワーカーの役割. 医療の広場2008; 48: 33-5.